

Feature

MILANO



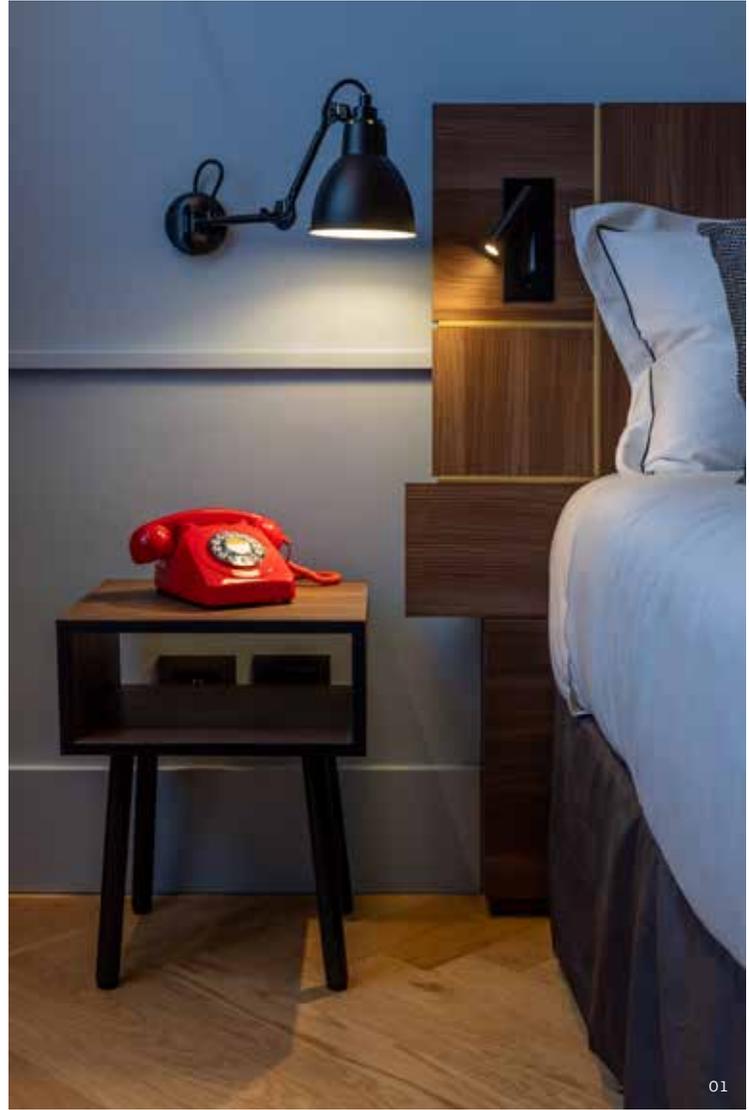
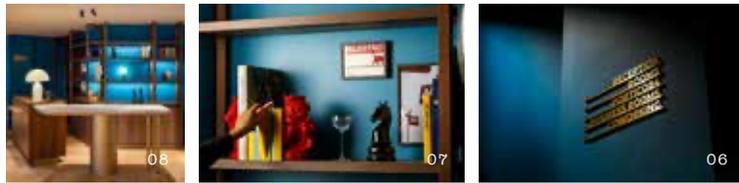
photo: Paolo Valentini (1~4, 8&9), Alberto Blasetti (5~7) text: Miki Tanaka

ART FOOD FASHION EVENT NEWS SPOT



ミーティングスポットとホテルの 中間に行く『アーバン・ハイブ』

01&02_ (Vudafieri-Saverino Partners) という有名な建築デザイン事務所が設計を担当している。ヴィンテージとモダンをミックスしたというミラノらしい美しいインテリア。ヴィンテージ家具以外はオリジナルデザインのものを用意しているんだとか。03_ロビー部分はオープンスペースになっており、旅行者と地元の人たちがシェアすることで国際的な雰囲気の漂う空間に。04_フィットネスクラブはチェックインの前でも利用することが可能。05_ミラノの中でも人気なゾーンの1つ、プレラに位置するため、パースペースでアペリティーボ(ディナーやランチ前に食前酒と軽食を摂ることをするミラネーゼ)。06_『アーバン・ハイブ』の特徴でもある、コワーキングスペースやレンタル会議スペースの表示。07_誰でも閲覧できる仕組みのライブラリーも設置。ここにも『共有』の雰囲気が満載だ。08_ホテル然とした威圧感がまったくない、シンプルなレセプションスペース。



宿泊客もミラネーゼも集える
アッターコロナの革新的スポット

今、ミラノではホテルのオープンラッシュが続いている。新オープンだけでなく、ロックダウンによる休業(や廃業)をきっかけにリニューアルしたホテルも多い。

そんな中、テンポラリーな公共スペースに力を入れたユニークなホテル『アーバン・ハイブ』がオープンした。宿泊客以外にも利用可能なコワーキングオフィスやレンタル会議スペースに加えてミーティングラウンジ、フィットネスクラブにレストラン&バーなど施設が充実。リモートワーク時代を反映した設備が満載のスポットとしてミラネーゼの間でも話題沸騰中だ。

ホテルはヴィンテージとモダンをミックスしたスタイリッシュなインテリアが自慢で、全97室を用意。一人用、二人用に加えて家族向けの部屋といった一般的な部屋から設備をカスタマイズできるテラーメイド、そして最高級のジュニアスイートまで、使用目的によって幅広くカテゴリー分けされている。そんなホテルの朝食スペースは11時以降、コワーキングスペースへと変身。ロビーや中二階、地下のシェアオフィスといった共有エリアは、誰でも気軽に使えるオープンスペースとして設計されている。また、3つある会議室も多機能スペースとして広くビジターに公開される。

また、地元民と宿泊客が同じ空気感を共有することができるようにという考えから、誰でも使える24時間営業のフィットネスクラブや朝食からディナー、カクテルバーとして一日を通してオープンしているダイニングも完備しているという。

アッターコロナの観光ブーム復活にも、働き方改革にも対応するホテル。時流に乗っているだけでなく、スペースをフルに活用することで、宿泊客も地元の人も使えるようにしたシステムは、実に利に適ったホテルの新しいの在り方なのかもしれない。



Urban Hive Milano
アーバン・ハイブミラノ
address: Corso Giuseppe
Garibaldi 84
Milan, 20121, Italy
tel: +39 02 29003888
url: www.urbanhivehotels.com